日刊 動労千葉

85. 11. 21

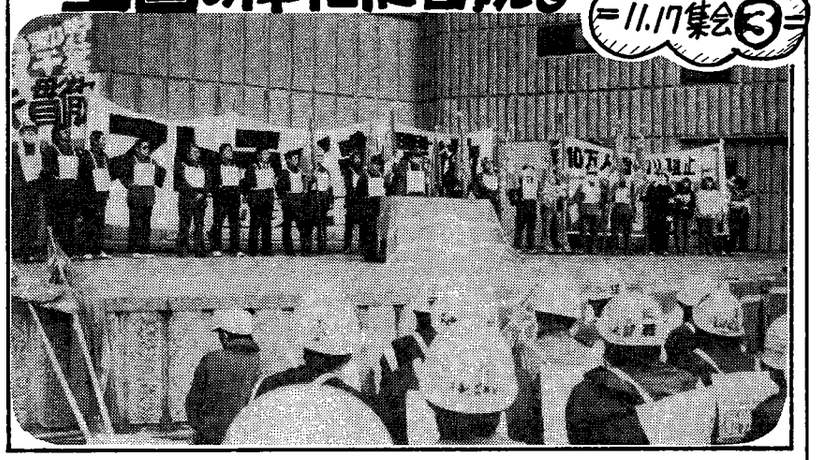
No. 2095

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二(22)七二〇七

国鉄「分割・民営化」阻止！三里塚二期着工粉砕！

自らの決起をもって全国の仲間に訴える

動労千葉の決意 ＝11.17集会③＝



引きつづき、国鉄においてトコトン闘いぬき、三十万七千国鉄労働者の決起をつくりだす。そして、この決戦の中に動労革マルを引きずりこみ打倒しなければならない。私たち電車支部は、先頭にたってストを断固貫徹する。

青年部・青行隊は、国鉄ゼネストの最先頭のたつ

新藤雄一・動労千葉本部青年部長

あと二週間、全力をふりしぼり、青年行動隊を先頭にストライキ貫徹に向け闘う。青年部は、この二カ月ストライキ・ストライキ・ストライキ、このことを全青年部・全組合に訴え闘いぬいてきた。このストライキは、青年部が先頭にたって闘うストライキである。イギリスの炭鉱労働者のストに学び国鉄ゼネストを実現し、この力で中曽根を打倒しよう。すでに中曽根打倒の突破口は、10・20で切りひらかれた。千鉄当局の不当処分、あらゆる反動をはねのけ、青年部は最先頭でストライキ貫徹へ闘いぬく。

青年行動隊代表　国分新小岩支部青年部長

不当処分に対しストライキで闘う。総武線をストップし、首都圏をガタガタにし、右翼・権力・革マルの妨害に屈せず闘う。

川崎津田沼支部青年部長

十一月二九日のストライキを絶対に守りぬくという立場から最先頭で闘う。反動分子の職場破壊・スト破りを絶対に許すことなく闘う決意だ。

闘うことを通して、自らの未来をきりひらく

山下　幸・津田沼支部長

何もやらずに塗炭の苦しみの中に追いこまれるのか否かの状況の中で、われわれは断固闘うことを通し、自分の未来を開く道を選んだ。今、国鉄労働運動の中で闘う方向をだしているのは動労千葉だけである。動労「本部」革マル松崎は、組合員を職場から放り出し、自分は毎日ゴルフにあけくれている。これが許せるのか。苦しい闘いを一丸となって闘うことで未来が切りひらかれる。全ての闘う仲間を結集しながらストライキを断固貫徹し三里塚・国鉄を基軸に中曽根を打倒するまでトコトン闘いぬく。

「三里塚ー国鉄」を基軸に、三〇万国鉄労働者の総決起へ

永田雅章・千葉運転区支部長

津田沼が緩行電車なら、私たちは快速電車を一本も動かすことなく決然と止めることをキッパリと宣言する。

戦争へ向かう中曽根のもくろみを、このストライキでコナゴナに粉砕する。

今こそ三里塚・国鉄を基軸とした闘いの真価がとわれている。10・20三里塚に

全組合員・家族　一丸となって十一・二九第一波ストへ!!

布施書記長

事態は明らかだ。全国の国鉄労働者の三人に一人の首を切ると中曽根はハッキリと言っているし、国鉄総裁杉浦は、団体交渉で労働組合と話し合うというポーズすら捨て去っている。労働者・労働組合を力で叩きつぶすとはっきり言っている。もうだまっていられない。

全職場でいばりくさっている当局を、二九日のストライキでけちらしてやろう。

誰が毎日列車を正確に安全に走らせているか思い知らせてやろう。

あらゆる反動が職場に家庭におしよせるだろう。それでも闘う決意をはっきりさせよう。死ねとまで言われて決起しない労働者・労働組合とは何だ。われわれは、動労革マルのような道を死んでもとることはできない。

われわれは、自ら決起し闘うことで全国の労働者に訴える。今日を起点に二九日に向け全組合員一丸となって全力で闘おう。

家族会代表・大須賀さん

私たち家族会は、分割・民営化に反対し、地区で何回も集会をもち、この集会にのぞみました。誰れ一人も首にしてはなりません。私たち家族も、このストライキを一生懸命応援し、おとうさんたちと一緒にがんばります。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！